

# 下 剤

下剤を大きく分けると以下の3種類になる

- ・緩下剤
- ・刺激性下剤
- ・その他

以上の3種類をさらに細かく分類することができる。それぞれについて詳しく見ていきましょう。

## 緩下剤

### 膨張性下剤

薬剤が水分を吸収し膨張することにより、腸管壁刺激することにより排便を促す。服用時十分の水分を摂取させること。

#### 代表薬

カルメロースナトリウム

### 浸潤性下剤

界面活性作用により便に水分を吸収させることにより便を軟化し排便を促す。

#### 代表薬

ジオクチルソジウムスルホサクシネート

### 塩類下剤

吸収されにくいいため腸管内で高張となり、水分の貯留、吸収を行い腸管内容物を増加させ排便を促す。服用時十分の水分を摂取させること。

#### 代表薬

酸化マグネシウム・・・腎不全患者では高Mg血症に注意

硫酸ナトリウム

クエン酸マグネシウム

## 刺激性下剤

### 小腸刺激性下剤

#### ヒマシ油

主成分のリシノール酸トリグリセリドが十二指腸で加水分解されリシノール酸となる。リシノール酸は小腸粘膜へ著しく局所刺激を持つため腸管の蠕動運動を亢進し瀉下作用を起こす。強力すぎて通常の便秘では使用しない

### 大腸刺激性下剤

大腸粘膜を刺激し蠕動運動を亢進させ瀉下作用をおこす。刺激により腹痛などの副作用が生じる場合もあり、習慣性もある。長期連用に対して腸管の形態的、機能的障害をきたす恐れがある。(ただし、こちらに関しては否定する見解もある)

#### 代表薬

#### ピサコジル

ピコスルファーナトリウム・・・比較的作用が緩徐なため、腹痛などの副作用は少ない

#### センノシド

#### センナエキス

## その他

### 炭酸水素ナトリウム 無水リン酸二水素ナトリウム座薬

腸内で炭酸ガスを発生させ、蠕動亢進作用と排便反応の動かす。

参考資料:治療薬マニュアル2006 医学書院

処方わかる医療薬理学2004-2005 中原 保裕 Gakken

今日の治療薬2007 神谷 大雄 久保 孝夫 塩見 浩人 南江堂

薬理学 神谷 大雄 久保 孝夫 塩見 浩人 廣川書店

薬剤師のための服薬指導ガイド 第2版

和田 攻 朝長 文彌 株式会社 文光堂